

Support



NO.6
令和8年2月9日
編集・発行
学校支援課 広報担当

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

子どもの学びと育ちをつなぐ、幼保こ小連携の取組

① 幼保こ小連携（架け橋期）の考え方と大切にしていること



子どもたちは、乳幼児期から児童期へと連続した学びと育ちの中で成長しています。幼児教育と小学校教育は、教育内容や指導の形に違いはあるものの、「子どもが自ら関わり、考え、学びを深めていく」という点では共通しています。

新潟市教育委員会では、この幼児期から小学校への移行期（架け橋期）に、子ども

の育ちを切れ目なく支える幼保こ小連携の取組を大切にしています。

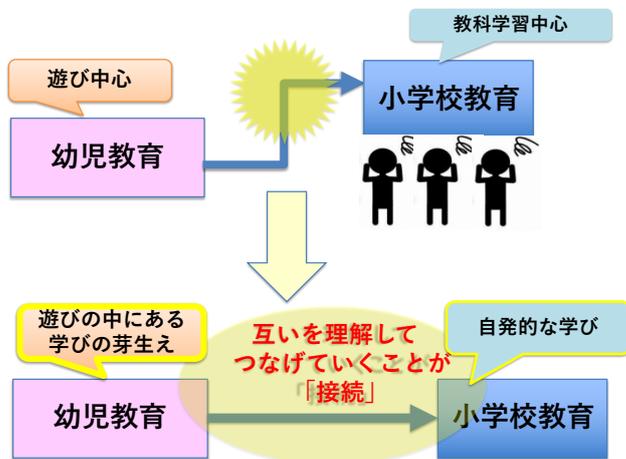
幼児教育で培われる「やってみたい」「友達とかかわりたい」といった意欲や態度は、小学校での学びの基盤となるものです。幼保こ小連携は、小学校教育を幼児教育に近づけることや、その逆を目的とするものではなく、子どもの姿や育ちを共通理解し、それぞれの教育のよさを生かしながら、円滑な接続を図ることを目的としています。

② なぜ、幼保こ小連携が重要なのか

環境の変化が大きい、小学校への「接続時」は、期待と同時に不安を感じる子どもも少なくありません。遊びを通して幼児期に培ってきた力が十分に発揮されないまま、教科学習中心の生活に戸惑う姿が見られることもあります。

幼保こ小連携を進めることは、子ども一人一人の育ちを丁寧に受け止め、安心して新しい環境に踏み出せるよう支えることにつながります。

また、園と小学校の職員が子どもの姿をもとに対話を重ねることで、「遊びの中にある学びの芽生え」と「自発的な学び」の連続性について理解が深まり、子どもを中心に据えた教育の実現が期待されます。



③ 今年度の新潟市の取組 ～幼保こ小合同研修会から～

令和7年7月16日に開催した「幼保こ小合同研修会」では、園と小学校が育てたい資質・能力や遊びや学習の実際の姿を紹介し合い、互いに大切にしたい「共通のキーワード」を考えました。これらの取組を通して、園と学校が相互に学び合い、連携の在り方を共に考える機会を広げました。

研修会では、以下のような声が会場から聞こえてきました。



令和7年7月16日開催の幼保こ小合同研修会で、「共通のキーワード」を決めている様子

～小学校の職員の声～

- ・今まで教師主導であったが、園のように、子どもたちが主体的に活動できるように、子どもの気づきを大切にしたい授業をしたい。
- ・園での学びは探究である。園では、たくさん遊んで探究して、小学校に入学してほしい。
- ・入学当初は、なるべく園での生活を継続し、無理なく学習へ移行できるようにカリキュラムを組みたい。

これらの発言は、幼児教育の価値を理解し、子どもの育ちを連続したものとして捉えようとする姿勢の表れです。今後も、園と学校が互いの教育・保育や実践を知り、対話を重ねながら、子ども一人一人の学びと育ちを共に支えていくことが大切です。

④ 新潟市の架け橋期カリキュラム「共通のキーワード」について

小学校と園で、共に大切にしたいことを端的に言い表した、「共通のキーワード」ですが、以下のような質問や意見が寄せられました。

- ・複数の園とつながるため、一つにすることが難しい。
- ・複数の小学校に入学するため、園にとっては、たくさんのキーワードができてしまう。
- ・参加していない園への対応は？

学校に入学予定のすべての園と連絡をとって、「共通のキーワード」を決めることは想定していません。まずは、令和7年7月に開催した研修会に参加した園と一緒に、つながりの強化を考えていきましょう。

園と小学校とが、同じ方向を向き、互いに大切にしたい事柄を共有するためのキーワードです。「決まらない」「難しい」ということであれば、無理に一つに決めようとせず、いくつか併記する、現段階では「空欄」のままにしておくことにしましょう。何度か対話を重ねる中で、それぞれが大切にしていることの共通点がより明確になっていくと考えています。

また、「新潟市の架け橋期カリキュラム」には、「新潟市が目指すこどもの姿」についての記載があります。これを共通のキーワードにして進めていってもよいでしょう。

		学びの目標					学びの活動				
		0-3	3-5	5-6	0-3	3-5	5-6	0-3	3-5	5-6	
基礎的・基本的な能力	① 意欲・関心・興味・好奇心	意欲・関心・興味・好奇心を育て、自ら進んで取り組む。									
	② 基礎的・基本的な能力	基礎的・基本的な能力を育て、自ら進んで取り組む。									
生活・社会	③ 生活・社会	生活・社会のルールやマナーを学び、自ら進んで取り組む。									
	④ 生活・社会	生活・社会のルールやマナーを学び、自ら進んで取り組む。									

⑤ 今後に向けて

今年度は、7月の研修会のあとに、園と小学校が互いの保育や授業を参観しあったり、子どもの育ちについて意見交換を行ったりする実践が各区や各学校園で見られました。積極的な連携の取組に感謝申し上げます。

幼保こ小連携は、単年度で完結する取組ではなく、継続的に積み重ねていくことが重要です。新潟市教育委員会では、子ども一人一人が安心して学びをつなぎ、自分らしく成長していけるよう、引き続き幼保こ小連携の推進に取り組んでいきます。



令和7年11月20日開催
結小学校区 保こ幼小情報交換会の様子